



ActiveImage Protector 3.5

MSCS/MSFC インストールガイド 第 2 版 — 2013 年 6 月 13 日

このインストールガイドは、MSCS (Microsoft Cluster Service) または MSFC (Microsoft Failover Cluster) で構築されたクラスター環境への ActiveImage Protector 3.5 (以降 AIP と略記します) のインストールと運用を説明します。

クラスタリングは稼働系と待機系が存在する標準的な 2 ノード構成を基準として作成しています。各項目の具体的な手順は、AIP のヘルプを参照してください。

Copyright 2013 NetJapan, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社ネットジャパンに所有権および著作権があります。

ActiveImage Protector、ActiveImage Protector Server、ActiveImage Protector Desktop、ActiveImage Protector IT Pro、ActiveImage Protector for Hyper-V with SHR、ActiveImage Protector for Hyper-V Enterprise、ReZoom、ActiveImage Protector Linux、ActiveImage Protector Virtual、ActiveImage Protector Cluster は株式会社ネットジャパンの商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows Preinstallation Environment および Windows PE は、Microsoft Corporation の商標です。

1. インストール

- ・ AIP は稼働系と待機系で別々にインストールして運用します。
 - ・ システムディスクのみのバックアップ構成の場合は、片ノードのみ、または両ノードにインストールすることができますが、クラスターディスクを増分バックアップする場合は、必ず両ノードに AIP をインストールしてバックアップスケジュールを作成してください。
 - ・ AIP のインストール先は、稼働系と待機系のローカルディスクを指定します。
-

2. バックアップ(スケジュールの作成)と通常の運用

- ・ クラスターディスク(クォーラムディスク)を増分バックアップする場合は、両ノードでスケジュールを作成して、バックアップ対象に指定する必要があります。
- ・ クラスターディスクを両ノードでバックアップする場合は、次の設定が必要です。
[高度な設定] → [アクセス不能のボリュームを無視する] のチェックボックスをオンにします。

イメージ作成での高度なオプション

スクリプト

スナップショット実行前に実行するスクリプト: タイムアウト (単位: 分) 30

スナップショット実行後に実行するスクリプト: 30

イメージ作成後に実行するスクリプト: 30

☐ タスクの実行エラー時でも、指定したスクリプトを全て実行する

その他

☐ イメージに未使用のセクターを含める

☐ イメージを MB 毎に分割する

☐ 不良セクターを無視する

☒ アクセス不能のボリュームを無視する

☐ 作成時にイメージを検証する

☐ ネットワーク スロットルを使用する (最大: KB/秒)

☐ ネットワークへの書き込み時にキャッシュを使用する

☐ MD5 ファイルを作成する

キャンセル OK

- ・ 待機系はディスクリソースを持たないため、クラスターディスクのバックアップスケジュールを作成することができません。このような場合は、フェイルオーバーを実行して、待機系でディスクリソースを所有している状態でバックアップスケジュールを作成してください。
- ・ 両ノードでクラスターディスクをバックアップした場合、ディスクリソースを所有しない待機系では、

クラスターディスクのバックアップはスキップされ、イメージは作成されずに履歴には警告が記録されます。クラスターディスクはディスクリソースを所有する稼働系でバックアップされます。

- ・ フェイルオーバー実行中のバックアップについては、動作保証していません。
フェイルオーバー完了後に Windows が安定稼働した状態でバックアップを実行してください。

3. イメージの復元

3-1 Windows のシステムディスクを復元する場合

- (1) 復元するノードを AIP の製品メディアでブートします。
このとき、残りのノードが稼働系として動作します。
- (2) 復元が完了したらサーバーを再起動します。
- (3) 復元したノードは待機系として動作します。

3-2 MSCS (Windows2003) のクラスターディスクを復元する場合

パターン A. WindowsPE を使用する(コールドリストア)

- (1) 両ノードの Windows をシャットダウンします。
- (2) 稼働系を AIP の製品メディアでブートします。
- (3) クラスターディスクを復元します。
- (4) 復元が完了したら、サーバー(稼働系)を再起動します。
- (5) 稼働系の Windows が起動し、クラスターディスクの内容を確認した後、待機系の Windows を起動します。

パターン B. Windows 上の AIP のコンソールを使用する(ホットリストア)

- (1) 待機系の Windows をシャットダウンします。
- (2) 稼働系で[デバイス マネージャ]を開きます。
- (3) [表示]→[非表示のデバイスの表示]をクリックします。
- (4) [プラグ アンド プレイでないドライバ]→[クラスタ ディスク ドライバ]のプロパティを開きます。
- (5) [ドライバ]タブ→スタートアップの種類を[システム]から[無効]に変更します。
- (6) 変更を有効にするため、稼働系の Windows を再起動します。
- (7) AIP のコンソールを起動して、クラスターディスクを復元します。
- (8) 復元が完了したら、(5)の変更を元に戻します。スタートアップの種類を[無効]から[システム]に変更します。
- (9) 変更を有効にするため、稼働系の Windows を再起動します。

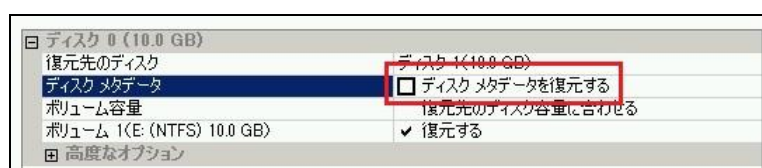
- (10) 稼働系の Windows が起動し、クラスターディスクの内容を確認した後、待機系の Windows を起動します。

3-3 MSFC(Windows2008/2012)のクラスターディスクを復元する場合

パターン A. WindowsPE を使用する(コールドリストア)

- (1) 両ノードの Windows をシャットダウンします。
- (2) 稼働系を AIP の製品メディアでブートします。
- (3) クラスターディスクを復元します。

このとき、[ディスク全体を復元する]を選択した場合は、復元オプションの[ディスク メタデータを復元する]のチェックボックスをオフにします。

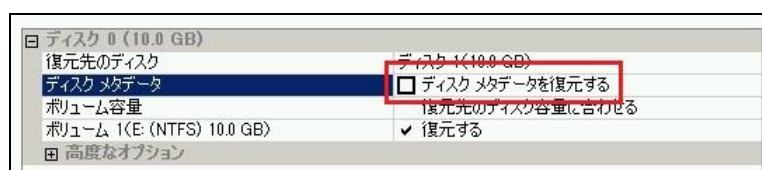


- (4) 復元が完了したら、サーバー(稼働系)を再起動します。
- (5) 続けて待機系の Windows を起動します。

パターン B. Windows 上の AIP のコンソールを使用する(ホットリストア)

- (1) 稼働系の Windows で AIP のコンソールを起動します。
 - (2) イメージ復元ウィザードでクラスターディスクを復元します。
- (復元の実行中はクラスターディスクにアクセスできません)

このとき、[ディスク全体を復元する]を選択した場合は、復元オプションの[ディスク メタデータを復元する]のチェックボックスをオフにします。



- (3) 復元を完了後は、そのままシステムを運用することができます。

上記は復旧手順の一例です。

運用を開始する前にお客様の環境に沿った復旧のシナリオを確立してください。